



こくろうよなご

第8号

2024年12月25日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！



浜田分会の学習会

考えたローカル線存続の意義 全分会で学習会とチラシ配布

国労本部が発した「公共交通を守る全国統一闘争」の提起を受け、米子地方本部として国労会館編集の「鉄道ネットワークの現状と持続可能性の検討」の冊子を使った学習会と米子地方本部作成のチラシ配布を全分会にて取り組んで来ました。

ローカル線一人旅！

12月11日、出雲地区分会事務所にて、学習会を開催しました。資料の読み合わせの後、討論を行いました。全国各地でローカル線廃止の話が持ち上がる中、身近な木次線の現状など話し合いました。ご多分にもれず、木次線沿線でも人口減少が進み、特に山間の出雲横田駅から備後落合に向けては、学生利用も減り厳しい状況にあることが報告されていました。一方、自治体の中にあっても、自治体の出資により駅に

12月14日、浜田地区分会にて学習会が開催されました。資料を読み合わせ意見交換を行いました。災害時における鉄道の必要性や三江線廃止後の現状としてバス転換後も路線が縮小している現状、国労単独ではなく自治体や地域を

誰もが年を重ねて！

12月19日、米子連合分会が学習会を開催してきました。学習資料にあった「上下分離方式」の採用について、「道路のみでなく

突然？脚光浴びる観光地！

去る12月16日、伯耆町を訪れ街づくり推進担当の職員さんと公共交通の現状、課題などについて意見交換を行いました。議論となった一つは、通学時における列車とバスとの接続改善についてです。町内の方からの要請もあって、この4月から、通学時の列車時刻に合わせたデマンドバ

スの運行を計画されているという事です。米子市内に自転車で通学する高校生も多くおられるという事でしたが、列車利用への繋がりを意識した取組みが見えてきました。2つ目は、イコカ利用者に対する利便性の向上についてです。既に山陰でも、いくつかの地域ではバスについてもイコカが利用できる

伯備線筋の自治体にはじめてお邪魔しましたが、鉄道の利用促進に関するヒントを多くいただきました。

問われる本気度！

12月19日、米子連合分会が学習会を開催してきました。学習資料にあった「上下分離方式」の採用について、「道路のみでなく

島根原発2号機の再稼働に抗議する！！

12月7日、島根原発2号機再稼働に合わせて、山陰各地で「再稼働の中止」を求めて抗議集会が開催されました。

このうち市内の一部地域が災害時に避難が必要な原発から30キロ圏内を含む米子市では、「再稼働の危険性を訴えてきたが、替え歌など、熱気を帯びた抗議集会

2011年の「フクシマ原発事故」では、約16万人が避難、未だに2万6千人が帰還出来ていません。一旦原発事故が起きれば取り返しがつかないのです。



米子集会の様子